

5月27日から一週間は気温が高め、降水量はやや多い予報

- 5月25日発表の1ヶ月予報では、気温は5月下旬が高い確率が50%で6月上旬は平年並みの確率が50%の予報。降水量は平年並みまたは多い確率がともに40%、日射量は平年並みまたは少ない確率がともに40%の予報となっています。
- 田植え後、気温が高くと藻が発生したり、土壌中の有機物の分解が進み土壌が酸欠状態となり、根痛みが発生し分げつが抑制されたり葉が黄変しますので、水の入替えなど適切な水管理を行ってください。

田植え直後～分げつ期の水管理

田植え直後は、深水で管理して活着を進め、活着後は浅水管理で分げつを促しましょう。

- 田植え後1週間は水深を4～5cm程度の深水とし、風や外気から苗を保護することで、苗の消耗を防ぎ新根の発生を促しましょう。活着後は、水深2～3cmの浅水管理とし、日中止水、夜間注水の保温的水管理を行い分げつの発生を促進させましょう。
- 晴天・高温が続く場合は、2～3日おきに水の入替えを行い、土壌の異常還元(ワキ)や表層剥離の発生を抑制しましょう。

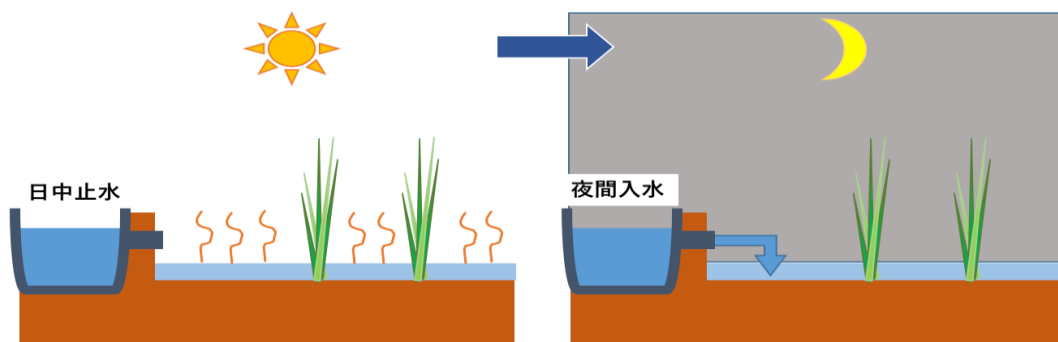


図 日中の水管理イメージ

高温時は土壌の異常還元（ワキ）に注意

ワキ(ガス害)が発生したら、下記の表を参考に水交換、夜間落水、田干しを行い、ワキの軽減に努めましょう。

表 ワキの程度と対策

ワキの程度と目安	生育への影響	対 策
水田を歩くと気泡が発生する	根の活力低下	水交換
水田を歩くと盛んに気泡が発生し、臭いを感じる	根張り不良	水交換、夜間落水
水田を歩くと著しく気泡が発生し、臭いを強く感じる	根の伸長阻害、地上部黄化	夜間かん水、田干し



農作業事故に注意しましょう！



春の作業は、耕起や代かきなどのトラクター作業、田植え機などの農業機械を使用する機会が多くなります。作業前には、機械の点検、危険個所のチェック等を行い、特に馬入れからの侵入時は転倒しないよう細心の注意をしてください。

除草剤の適正使用で効率的に雑草を抑えましょう

- 気温が高いとワキや表層剥離が発生するだけでなく、雑草の生育が早まります。雑草の葉齢が進むと除草剤の十分な効果が見込めなくなるので、遅れないよう散布しましょう。
- 水草や藻類、表層剥離が発生している場合は、ジャンボ剤や豆つぶ剤がうまく拡散できずに、薬害が発生したり除草効果が劣ることが懸念されるので、水草や藻類は早めにモゲトンで駆除してから、除草剤を散布しましょう。
- 除草剤散布後、7日間は湛水状態を保ちます。その間ワキが進むので、下図のように除草剤散布前に水交換または軽い田干しを行いましょう。
- 除草剤の効果を高めるためには、均一な処理層をつくる必要があります。水口と水尻をしっかり止め、湛水状態で水深を粒剤・フロアブル剤で3～5cm、ジャンボ剤・豆つぶ剤は5～6cmとし、7日間は落水、かけ流しせずに湛水状態を保ちましょう。(水深が低下した場合は、処理層を壊さないようゆっくり入水する)

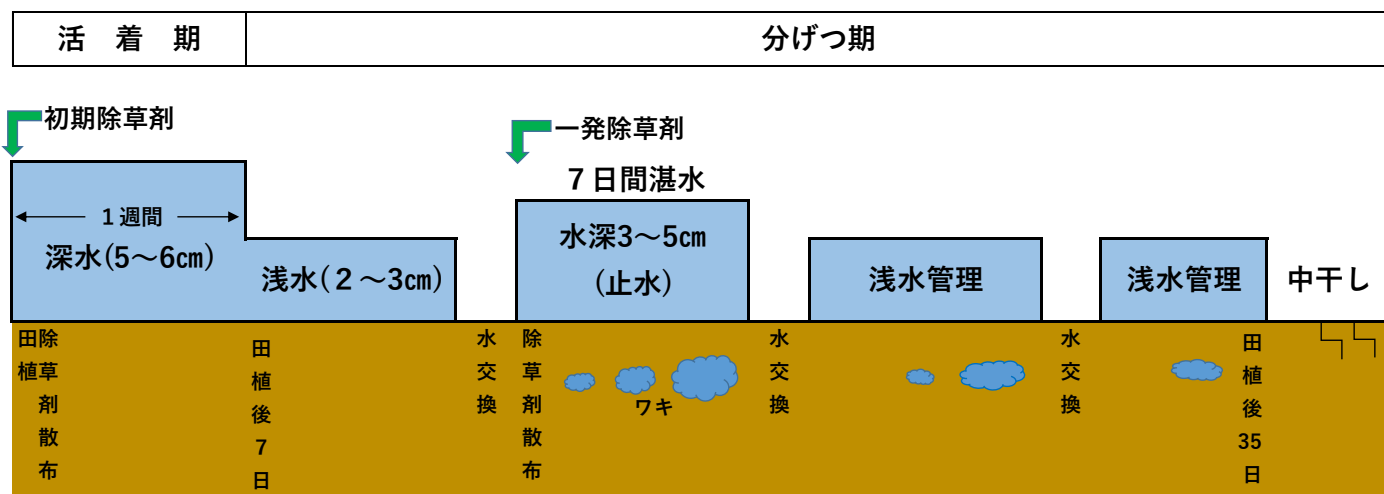


図 初期除草剤と一発除草剤を使用した場合の水管理の例

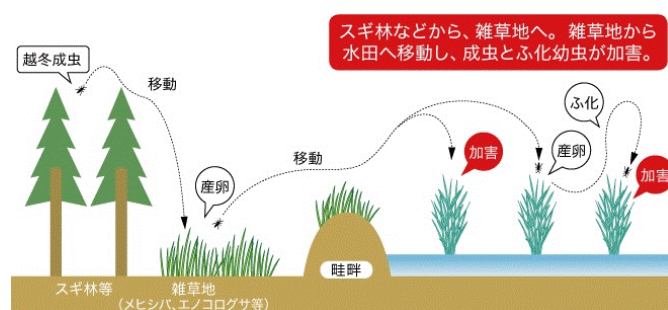
いもち病やカメムシの防除を徹底しましょう

いもち病やカメムシが多発すると、収量が激減したり、米の品質が低下します。低温多雨の梅雨時は、いもち病の感染条件が整いやすいので、薬剤による防除や耕種的防除を徹底してください。

- 置き苗は、いもち病の感染源になるので廃棄します。畦畔などのイネ科の雑草は、いもち病やカメムシの発生源になるので、定期的に刈り取ってください。
- いもち病防除剤(粒剤)を散布する場合、水深を3cm以上とし、散布後7日間、少なくとも3～4日間は湛水状態を保ちましょう。
- 県病虫害防除所の水稻いもち発生予測システム(BLASTAM)を参考に防除が遅れないようにしましょう。



葉いもち病斑



斑点米カメムシの生態



NOSAI 山梨 山梨県農業共済組合

<https://www.nosai-yamanashi.or.jp>

■中央支所 TEL:0553-22-5056
■南アルプス支所 TEL:055-282-0443
■本所 TEL:055-228-4711

■北部支所 TEL:0551-23-1111
■富士支所 TEL:0554-45-6611